

こまざわ 経済 通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

駒澤大学経済学部同窓会の閉会にあたって

駒澤大学経済学部同窓会は平成5年11月20日の総会で設立を宣言した。本会を立ち上げたのは卒業生や教職員の経済学部への熱い思いであり、総会の出席者は600人であった。

創立にあたり本会が掲げた目的は、第一に「同窓生の親睦」、第二に「経済学部および母校の発展に寄与」することであり、本会はその目的を実現すべく活動を進めた。

「同窓生の親睦」を目的とする活動として、3年ごとの総会や懇親会、経済学部創立20年、30年の記念祝典や講演会、経済学部創立70周年を祝う会、年1回の記念講演と懇親会等が実施され、全国から会員や卒業生が参集し学部の発展を祝い旧交を温めた。

「経済学部および母校の発展に寄与」する活動には、学生シンポジウム、ソフトボール大会や球技大会の支援、インターンシップへの協力、卒業式での成績優良者の表彰等があった。諸行事には財政支援をおこない、会員、学生、教職員が一体となった教育支援事業として定着した。令和4年7月には新図書館建設事業募金に寄付するなど母校の発展に寄与する事業も実施した。

本会の活動歴は『こまざわ経済通信』（第1～56号）^注に記録されている。

しかし本会も、時代の推移とともに新入会員の減少、会員の高齢化、役員の後継者難という困難に直面するようになった。令和6年4月には組織運営の中心であった大場康宣会長の急逝という事態も重なった。組織存続のための努力が続けられ、事態打開のためあらゆる方策が講じられたが、衰退への流れを止めるだけの成果をあげることはできなかった。その背景には、大学をとりまく社会環境や学生意識の変化という大きな時代のうねりがあった。

以上の状況により、本会は令和7年6月14日に臨時総会を開催し32年の歴史に幕を降ろすことを決定した。残余資産は経済学部へ寄付して「経済学部同窓会教育支援基金」を創設し、後進の教育支援に活用することになった。

経済学部の同窓会組織は失われるが、昭和24年（1949年）創立の伝統を誇る駒澤大学商経学部および経済学部で学んだ同窓の絆は時代を反映する新たな形態を得て再生され、世代を超えて継承発展していくことを祈念する。

長年、本会にご協力いただいた会員各位、組織運営に尽力された歴代役員、終始支援を惜しまれなかった経済学部教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

経済学部同窓会役員会

注. 経済学部ホームページの「経済学部作成ページ」にあるサイト「同窓会」に収録。

臨時總會報告

(a) 総論

本年6月14日にて、大学施設246会館で経済学部同窓会臨時總會を開催致しました。同窓会存続が困難となったため、閉会を提案し、それに対して会員各位の意見並びに考え方を求めることが目的でした。結果、全員の同意を受けて同窓会の閉会を決定致しました。今回の閉会に到るまでに、入会者の減少、会員の高齢化、役員の後継者難など数多くの問題がありました。会員獲得に向け数多くの努力をして参りましたが、今回の事態に至りました。母校の発展のため、多くの方々の努力で駒澤大学のブランドを世界には羽ばたかせております。同窓会閉会にともない、残余資産をもって経済学部同窓会教育支援基金を創設致しました。今後は、経済学部発展のためにこの基金を活用して頂きたいと思っております。最後に皆様方の益々のご発展を願っております。

(b) 提案書

<臨時總會：審議事項>

駒澤大学経済学部同窓会の閉会について

駒澤大学経済学部同窓会（以下同窓会と略す）役員会は会則第12条により臨時總會を開催し、令和7年6月14日をもって同窓会閉会の提案をすることを決定した。

提案理由

駒澤大学経済学部同窓会は平成5年に設立され32年の歴史を歩んできた。

本会の目的は、第一に「同窓生の親睦」、第二に「経済学部および母校の発展に寄与」することであり（会則第2条）、経済学部卒業生や教員の熱い思いによって設立された。

「同窓生の親睦」を目的とする活動としては、3年ごとの総会や懇親会、経済学部創立20年、30年の記念祝典や講演会、経済学部創立70周年を祝う会等を実施し、全国から会員や卒業生が参集し学部の発展を祝い旧交を温めてきた。

「経済学部および母校の発展に寄与」する活動としては、学生シンポジウム、ソフトボール大会や球技大会の支援、インターンシップへの協力、卒業式での成績優良者の表彰等を実施してきた。諸行事には財政支援をおこない、会員も参加して卒業生と学生が一体となった事業として定着した。また、令和4年7月には駒澤大学新図書館建設事業募金に寄付するなど母校の発展に寄与する事業も実施した。

同窓会活動は年2回発行の会報「こまざわ経済通信」で会員に報告し、情報共有と組織強化の努力を重ねてきた。会報は第55号まで継続発行された。

これらの活動を実務的に支えたのは歴代役員の献身的なボランティア活動であった。

こうして活動を続けてきた本会も時代の推移とともに困難に直面するようになった。入会者の減少と会員の高齢化である。入会者減少の原因を特定することは困難であるが、学生の組織とのつながりを求める意識が希薄化し、組織への帰属を嫌う傾向が強まったことが一因とみられる。会員は年を追って減少し現在は357人となっている。(令和7年3月)

入会者の減少により年齢構成に極端な歪みが生じ、65歳以上の会員が81%、70歳以上が62%となっている。対照的に40歳以下の会員は8%にすぎない。(令和5年11月)

同窓会の運営を担っている役員も高齢化しており、役員(学外)全員が75歳以上である。辞任者増加のため業務負担は過重になり、後継者を確保できないため今後の活動続行を展望できない状況になっている。

会員も役員も高齢化した結果、同窓会の活動実績は年を追って低下している。

第10回総会(令和5年12月2日)の出席者は26人(うち役員8人)であり、直近の講演会・懇親会(令和6年11月23日)の出席者も18人(うち役員9人)であった。

事態を打開するため、会員獲得や役員募集に不断の努力を続け、卒業式やホームカミングデーでの会員募集、会報「こまざわ経済通信」、同窓会ホームページ、Facebook等による広報強化、経済学部・大学当局との連携などあらゆる方策を講じたが、会員減少と高齢化を止めるだけの成果をあげることはできなかった。同窓会活動の退潮は全国的な傾向ともいわれる。

入会者の減少、会員の高齢化、役員の後継者難という「三重苦」に対して、役員会は同窓会再建について数年にわたり慎重審議を重ね、あらゆる打開策を実施した結果を分析し、同窓会の存続可能性について否定的な認識を持たざるを得なかった。

以上の状況に鑑み、役員会は会則第12条による臨時総会を開催し、本会の目的に即して残余資産を駒澤大学経済学部へ教育支援金として寄付し、同窓会閉会を提案するとの結論に達した。

同窓会32年の歴史と会員の母校愛を想うと苦渋の決定であるが、会員各位には事情ご賢察のうえ、ご理解賜りますことをお願い申し上げます。

令和7年6月14日
駒澤大学経済学部同窓会役員会

以上

付記：なお役員の任期は閉会後の残務処理が完了するまでとする。

(c) 議事録

1. 開催日時 2025年6月14日 14時00分開会、同20分閉会
2. 開催場所 駒澤大学学生会館246 7階会議室
3. 出席会員 15名
4. 議決事項 駒澤大学経済学部同窓会の閉会について
5. 議事の経過の概要及び議決の結果

- (1) 臨時総会開催にあたり、石塚副会長より会長不在につき会則第9条2「副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する」に基づき代行を務める旨の発言、そして総会議長を務めることが宣せられ、本臨時総会が会則第12条（「臨時総会は、役員会が必要と認めたとき、これを開催することができる」）により開催する旨が説明され議事に入った。
- (2) 議長（石塚）により、総会議決事項の役員会提案を友松副会長に求めた。
 - ①友松副会長より、別紙「駒澤大学経済学部同窓会の閉会について」の説明を行った。
 - ②廻財務担当幹事より、同窓会の財務状況と今後最終号となる会報「こまざわ経済通信」発行費の見込額の補足説明があった。
 - ③議長より、閉会となった場合の同窓会残余の資金は、経済学部教授会に学部事業である教育支援に充当すべく全額寄付を申し入れることを再度説明した。
- (3) 議長が以上の「駒澤大学経済学部同窓会の閉会について」の提案と補足説明等に関して会場に質疑を求めたが発言がなく、再度議長が会場に諮ったところ出席者全員が賛成の挙手であった。
- (4) 議長が提案に対して全員賛成（「会則第12条2 総会の議事は、出席者の過半数以上の賛否をもって決する」）であることを確認し臨時総会の閉会を宣し散会した。



決算報告書・監査報告書

令和6年9月30日現在 会計報告

R5.10.1 ~ R6.9.30

収入		支出	
前期繰越	2,767,941		
会費・寄付	491,000	通信費	370
利息	97	会議費	32,145
		印刷費	514,379
		記念品	9,011
		消耗品費	12,579
		手数料	318,866
合計	3,259,038	合計	887,350
		次期繰越	2,371,688

残高明細

ゆうちょ銀行 1,066,835 円
 みずほ銀行 1,275,138 円
 小口現金 29,715 円
 合計 2,371,688 円

令和7年10月31日現在 会計報告

R6.10.1 ~ R7.10.31

収入		支出	
前期繰越	2,371,688		
会費・寄付	15,000	通信費	0
利息	997	会議費	89,907
		印刷費	433,941
		記念品	18,000
		消耗品費	10,716
		手数料	217,985
合計	2,387,685	合計	770,549
		次期繰越	1,617,136

残高明細

ゆうちょ銀行 1,081,835 円
 みずほ銀行 535,301 円
 小口現金 0 円
 合計 1,617,136 円

監査報告書

駒澤大学経済学部同窓会 殿

私監査人は、駒澤大学において令和5年10月1日より、令和7年10月31日までの各事業年度につき、提出された証拠書類並びに決算書に基づき、会計監査を実施しました。

監査の結果、いずれも適正にしてかつ正確に処理されていると認めました。

令和7年10月31日

監査 三田佳男 

経済学部同窓会閉会にともなう ホームページのリニューアル

経済学部同窓会の閉会にあたり、ホームページをリニューアルいたしました。これまでの歩みを記録として残すため、「同窓会」という文言や、発行してまいりました「こまざわ経済通信」を引き続き掲載し、内容を新しくいたしました。



[ホーム](#) | [学部長あいさつ](#) | [経済学科](#) | [商学科](#) | [現代応用経済学科](#) | [キャリア教育](#) | [同窓会](#) | [ラボラトリ](#)

[ホーム](#) > [同窓会](#)

同窓会

経済学部同窓会は2025年6月に閉会いたしました。
これまでのご協力を感謝申し上げます。
今後は本ページを通じて緩やかに繋がっていきたいと思います。

駒澤大学経済学部同窓会の沿革（1993～2025年）

駒澤大学経済学部同窓会は平成5年11月20日の総会で設立を宣言した。本会を立ち上げたのは卒業生や教職員の経済学部への熱い思いであった。

創立にあたり本会が掲げた目的は、第一に「同窓生の親睦」、第二に「経済学部および母校の発展に寄与」することであり、その実現をめざし活動を進めた。

「同窓生の親睦」を目的とする活動としては、3年ごとの総会や懇親会、経済学部創立20年、30年の記念祝典や講演会、経済学部創立70周年を祝う会、年1回の記念講演と懇親会等が実施され、全国から会員や卒業生が参集し学部の発展を祝い旧交を温めた。

「経済学部および母校の発展に寄与」する活動には、学生シンポジウム、ソフトボール大会や球技大会の支援、インターンシップへの協力、卒業式での成績優良者の表彰等があった。諸行事には財政支援をおこない、会員、学生、教職員が一体となった教育支援事業として定着した。令和4年7月には新図書館建設事業募金に寄付するなど母校の発展に寄与する事業も実施した。本会の活動歴は『こまざわ経済通信』（第1～56号）に記録されている。

しかし本会も、時代の推移とともに新入会員の減少、会員の高齢化、役員の後継者難という困難に直面するようになった。組織存続のための努力が続けられ、事態打開のためあらゆる方策が講じられたが、衰退への流れを止めることはできなかった。

以上の状況により、本会は令和7年6月14日に臨時総会を開催し32年の歴史に幕を降ろすことを決定した。残余資産は経済学部へ寄付して「経済学部同窓会教育支援基金」を創設し、後進の教育支援に活用することになった。

経済学部の同窓会組織は失われるが、昭和24年（1949年）創立の伝統ある駒澤大学商経学部および経済学部で学んだ同窓の絆は、時代を反映する新たな形態を得て再生され、世代を超えて継承発展していくことを祈念する。

長年、本会にご協力いただいた会員各位、組織運営に尽力された歴代役員、終始支援を惜しまれなかった経済学部教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

*同窓会に関するお問い合わせ連絡先
駒澤大学「経済学部事務室」
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話：03-3418-9343

こまざわ経済通信

[こまざわ経済通信 55号（2025年3月）](#)

[こまざわ経済通信 54号（2024年9月）](#)

「経済学部同窓会教育支援基金」について

経済学部同窓会が掲げてきた目的の一つに、経済学部および母校の発展に寄与することがありました。この目的に基づき、閉会にともなう残余資産1,617,136円を教育支援金として有効に活用するため、「経済学部同窓会教育支援基金」を創設し、その管理を経済学部に一任いたしました。当基金は、経済学部で実施している「学生奨学論文」などの支援資金として活用される予定です。

駒澤大学経済学部同窓会の思い出

相原 栄治

経済学部商経学科昭和45年3月卒業

同窓会との最初の関わりは、ホームカミングデーの開催時でした。駒澤大学同窓会神奈川支部の案内ブースの隣に並んで駒澤の他の会のメンバーの小谷野浩治さんと斉藤但さんが案内をされており、入会をいたしました。

在学中は矢吹教授の「在学中、友達を千人作りなさい。人は財産となります。」を忘れることはなく、今でも友達を大切に作ることを心がけ、深沢校舎と本校東門の桜の記念植樹に集う「矢吹会」に参加させていただいております。

「こまざわ経済通信第26号」2011年3月発行の卒業生シリーズの中で、「細谷講師の思い出」として「求むる心なき人は強し」の言葉を折に触れ、「価値、評価は人が決めるもの」と話され、受講した7年間の仲間「駒澤細谷会」を続けております。

同窓会活動も小谷野さんに代わり、お手伝いをさせていただき、昨年亡くなられた同時期卒業の大場会長とは一時期、世田谷区が職場でしたので親しくさせていただきました。

同窓会の閉会に際しまして、これまでご尽力されました方々に感謝申し上げます。

これからも駒澤大学が発展されますことご祈念申し上げます。

柚木 駿一

経済学部経済学科昭和45年3月卒業

駒澤大学経済学部同窓会の設立から今回の閉会に至る経緯については、すでに述べられていることなので省略しますが、私は第6回総会で役員に選任されてから運営に関わってきました。設立時から献身的に携わってこられた谷敷先生、そして友松先生には心から敬意を表したいと思います。私自身どれだけ会の運営に役割を果たしてきたかは些か反省をすることもありますが、やはり、この組織を継続させることができなかつたことは残念である、の一言です。ただ、同窓会が後輩たちに「経済学部同窓会教育支援基金」を残せたことで同窓会活動の目的でもあった教育支援事業に今しばらく寄与することが出来ることに安どしています。

個人的には、著書紹介欄に谷敷正光著『戦前期綿糸紡績業における女学校の成立』と姉齒暁著『農家女性の戦後史』の著書紹介を書かせていただきました。そして、何よりも恩師である古庄正先生の甲文を寄せる機会を得たこと、第54号の経済学部今昔物語に「永田正臣先生との研究上の出会い」を寄稿させてもらうなど同窓会・「こまざわ経済通信」に大変お世話になり、良い思い出になったことに深く感謝しております。

経済学部同窓会賞の受賞者

2024年度卒業式は、2025年3月23日におこなわれました。経済学科302名、商学科216名、現代応用経済学科153名、合計671名の卒業生が誕生しました。経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品（図書カード）を授与しました。受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

経済学科：	森谷 美希	矢井光太郎	鈴木 彩萌
商学科：	竹内 希実	中山なつみ	松江 拓哉
現代応用経済学科：	片岡 慶也	鈴木 悟	中本明日歌



森谷 美希



矢井 光太郎



鈴木 彩萌



竹内 希実



中山 なつみ



松江 拓哉



片岡 慶也



鈴木 悟



中本 明日歌



駒澤大学

<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

経済学部

<https://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/economics/>

経済学部同窓会

<https://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/economics/alumni.html>